



HIROMITSU



Kan Sanbonji

photo:NAGAI Fumihito



YUSEI



Aiko Tanaka

photo: Tatsuki Tanaka

START Box EXHIBITION vol.2

2024.9.3^{TUE} - 8^{SUN}

12:00~18:00 (3日は20:00まで) 入場無料

YAU CENTER

千代田区丸の内3-1-1 国際ビル1F



Ryusei Akune



Mio Hirayama



Akari Fujise



Maki Hayashida



Ryoichi Nakamura

若手アーティストに、創作場所を提供し、継続的な活動を支援する取り組みとして2023年に立ち上がった「START Box」。(主催:東京都及び公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京)

アトリエで活動する作家の中から9名の作品を展示します。

START Box

START Box EXHIBITION vol.2

参加作家

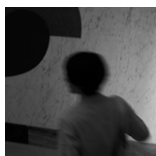
阿久根瑠聖 / Ryusei Akune

2001年鹿児島県生まれ。日本大学芸術学部美術学科絵画コース卒業。幼少期から住んでいる団地を絵画空間の場として設定し、その上に現代社会の出来事を組み合わせ、自身と出来事の関係性を考察した作品を制作している。2023年「Idemitsu Art Award」、2024年「FACE2024」、「月刊美術 presents 美術新人賞デビュー」入選。



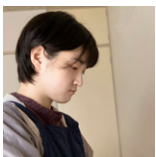
三本木歓 / Kan Sanbongi

1990年東京都生まれ。東京大学大学院工学系研究科修了。場所のもつ固有の文脈や既存のイメージを、主に建築的な視点・思考で再解釈し、日常的な観点からは見落とされてしまうような、構造や連環を顕在化させる空間表現を展開する。そこから喚起された認識は、主題の出発点と終着点に時に反転したり並走したりすることによって、複合的な意味や様相を帯びていく。隣接するもの同士の関係性から始まり、その対象を徐々に敷衍させつつ、多様な手法で制作を試みる。



田中唯子 / Aiko Tanaka

1991年東京都生まれ。女子美術大学大学院美術研究科版画研究領域修了。主に、写真や映像が人に対して与える心理的影響に着目している。報道写真や映像など既存メディアから得られる情報を元に、様々な版画の技法や鉄錆を紙や石膏に写し取る技法を用いて版画作品を制作。主な参加に2022年「伝えたい情景～木版画家・山岸主計と現代作家たち～」など。



林田真季 / Maki Hayashida

1984年大阪生まれ。2023年ロンドン芸術大学ロンドン・カレッジ・オブ・コミュニケーションMA Photography修了。写真というメディアとその様々な形態に興味を持ち、デジタルとアナログ両方のプロセスを試しながら、社会を反映する現代アートとしての写真に挑戦する。また、写真と環境の相反する関係を落とし込むことによって、デジタル時代における写真メディアの物質性と複製性を問いつける。2024年第17回「shiseido art egg」入選をはじめ、国内外で作品を発表している。



ヒラヤマミオ / Mio Hirayama

1999年福岡県生まれ。武蔵野美術大学空間演出デザイン学科卒業。マイナスの感情の中にあるポジティブな側面についての制作を行っている。過去作では、コロナ禍の緊急事態宣言時や、顔面神経麻痺での入院時など、“孤独を感じる状況”から生まれた、いつもとは異なる視点や、自分なりの遊びを作品にしている。2021年「いい芽ふくら芽 in TOKYO」入賞、他受賞。



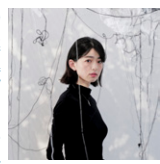
広光 / HIROMITSU

1989年富山県生まれ。愛知県立芸術大学美術学部デザイン・工芸科デザイン専攻卒業。遊び心ある多層的な画面構成と写真表現の幅広さを特徴としファッション・アート等の撮影を手掛ける。鈴木彩加とのアーティストユニット OOUU (オーユー) では、写真とドローイングによる発句と返答を繰り返す Correspondence (= 往復書簡) を発表。NONIO ART WAVE AWARD 2019 石井孝之賞受賞。



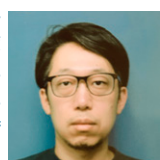
藤瀬朱里 / Akari Fujise

「ラインの解体と構築」に着目しその軌跡を捕まえることで、世界を理解するための新しい言語の構築を試みている。ドローイングを軸として制作を行う中でその概念を拡張することにも関心を持ち、リサーチーとして国際的なコンテンツポラリドローイングの研究にも携わっている。



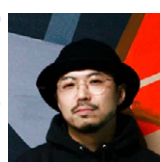
中村亮一 / Ryoichi Nakamura

1982年東京都生まれ。2002年東京造形大学入学(2003年渡独を理由に退学)。現代社会における多様性や共存の在り方に着目し、2015年から「a study of identity」シリーズに取り掛かる。2015年公益財団法人ボーラ美術振興財団在外研究助成、2018年ビル&メリンダ・ゲイツ財団に作品收藏、2019年都美セレクショングループ「星座を想像するよう」に過去、現在、未来」その他展覧会多数。



YUSEI

1986年福島県福島市生まれ。10代後半にストリートアートに影響を受け活動を開始。フリースタイルを重視したライブペインティングやミューラルを得意とし、自然と都会的なイメージを融合したアブストラクトなスタイルで描く。近作に2024年川崎市、クオアチアリエカ市との友好プロジェクトにおけるミューラル。アート集団「輪流絵師団」メンバー。アートメディア「BEHIND THE WALL」主宰。



START Box × YAU 関連イベント

▼YUSEI ライブペインティング

2024年9月3日(火) 18:00~20:00

▼トークイベント 2024年9月7日(土)

①14:00~15:00 阿久根瑠聖、田中唯子、広光、藤瀬朱里

②16:00~17:00 林田真季、ヒラヤマミオ、中村亮一

参加アーティストによるギャラリートークを行います。※無料

ゲスト:長谷川新(インディペンデントキュレーター)

はせがわあらた|主な企画に「クロニクル、クロニクル!」(2016-17)、「不純物と免疫」(2017-18)、「グランパース」(2019-)、「I am Project 2020-2021 約束の凝集」(2020-21)、「反戦展(2022-)」、「奈良・町家の芸術祭はならあと2023 宇陀松山エリア SEASON 2」(2023)など。「日本戦後美術」を再検討する「イザナギと呼ばれた時代の美術」を不定期連載中(Tokyo Art Beat)。

アクセス

YAU CENTER
(100-0005 東京都千代田区丸の内3-1-1国際ビル1階)

- JR「有楽町駅」国際フォーラムより徒歩2分
- 東京メトロ有楽町線「有楽町駅」直結
- 都営地下鉄三田線「日比谷駅」直結
- 東京メトロ日比谷線「日比谷駅」直結



お問合せ|公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京 企画部
tel: 03-6256-8853 (平日:10:00~18:00)

主催:東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京 協力:有楽町アートアーバニズム YAU



東京都

ARTS COUNCIL TOKYO



YAU

START Boxとは

アトリエ等を確保することが難しい若手アーティストに創作場所を提供し、継続的な活動を支援する、東京都及び公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京の事業です。2023年4月には、渋谷区笹塚・幡ヶ谷にある都営住宅の空き店舗を活用した創作スペース「START Box ササハタハツ」、2023年11月には、お台場の東京都住宅供給公社の空き店舗を活用した創作スペース「START Box お台場」をオープンし、これまで34名が利用しています。また、オープンアトリエ等による地域やアーティスト同士での交流や、文化イベントによる作品発表の場の提供などを通じて、アーティストの活動支援を行っています。



公式HP

STARTBox

YAUとは

NPO法人大丸有エリアマネジメント協会、一般社団法人大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会、三菱地所株式会社により組成された「有楽町アートアーバニズム実行委員会」が2022年2月に立ち上げた、まちがアートとともにイノベティブな原動力を生み出すための実証パイロットプログラムです。アーティストの稽古場や制作場所、様々な領域に開いたコワーキングスペース、トークイベント「YAU SALON」を実施するなど、ビジネス街においてアート&ビジネスの核となるコミュニティ形成に取り組んできました。2023年11月より国際ビル7階に移転、2024年3月に1階の路面区画にオルタナティブスペース「YAU CENTER」をオープンしました。今後も街との接点を広く持つことで「アートアーバニズム」を継続・実践し、大丸有におけるアートとビジネスをつなぐ永続的な活動体となることを目指しています。

YAU